

第1学年保健体育科学習指導案

日 時：6月11日（金）

学 級：

場 所：

授業者：

1 単元名 器械運動「マット運動」

2 単元について

(1) 運動の特性

(1) 運動の特性

①「できない」から「できる」までのギャップが大きい。

器械運動は日常の生活の中では特に必要としない「回転する」「逆さになる」など不安定な状態をいかに支配できるのかを顕示しようとしたものである。したがって、不安定な状態を支配する能力（例えば回転感覚や逆さ感覚など）によって、「できる」、「できない」がはっきりしており、「できない」から「できる」までに大きな壁があることが、一つの特性である。

こうした特性から器械運動の教育効果を考えると、まず身体発達刺激としてとくに調整力（不安定な状態を支配する能力）を発達させるのに有効である。

②「克服」を目指すことから「達成」を目指す発展的なスポーツである。

器械運動は「克服スポーツ」といわれることがあるが、本来の器械運動は「できる」ようになれば終わりではなく、さらに「より美しく～ダイナミック」なものを目指すなど発展的なものである。また、それを競い合うことから「競争スポーツ」としての性格ももっている。ただし、「できない」から「できる」までのギャップが大きいことから、「できる」ようになったとき、壁を乗り越えたことによる精神的な面で「克服した」という満足感は大きい。

「克服」から「達成」の性格へと発展させるスポーツであるという特性を踏まえると、克服する喜びや達成する喜びを味わうと共に勇気、決断力などの精神的発達をも促すことができるスポーツであるといえる。

(2) 集団の特性

器械運動は個人種目であるが、集団との関わりを強くもつ運動である。運動場面では、器具が固定しているため、運動する者と見る者との関係が深い。また、教える者と教わる者、評価する者と評価される者などの相互関係が位置つきやすい。したがって、活発な相互援助活動を期待することができる特性があるといえる。

3 生徒の実態

中学校に入学して2ヶ月たち、違う小学校から来た仲間とも積極的にかかわることができている。前単元では、男女一緒に陸上競技（短距離走）の学習をしている。

マット運動の単元に入る前に生徒にアンケート調査を行ったところ、以下のような結果が得られた。

1 体育は好きですか、嫌いですか。（上段：結果 下段：理由 以下同じ）

<ul style="list-style-type: none"> ・好き …… 10 ・どちらかといえば好き …… 7 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかといえば嫌い …… 2 ・嫌い …… 1
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすのが好き、走るのが好き ・じっとしてなくて良い。 ・頭を使わなくていい。 ・楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でやるのは好きだが、みんなの足を引っ張るから嫌い。何もできないから、体育している自分を見られたくない。（「嫌い」の1人） ・運動が苦手。

2 マット運動は得意ですか、苦手ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ア. 得意 …… 9 イ. どちらかといえば得意 …… 4 	<ul style="list-style-type: none"> ウ. どちらかといえば苦手 …… 4 エ. 苦手 …… 6
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のときから楽しかった。 ・家で練習をしていたから得意。（アでなくイなのは） ・できて楽しい技もあるが、苦手な技もある（後転、倒立、倒立前転など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体がかたいから苦手。 ・できない技がある。 ・倒立は絶対にできない。 ・失敗して落ちるときがこわい。 ・頭を打つ。 ・どうやればいいのかわからない。 ・できるまでやりたいけど、できないから。一人でやるのは好きだけど、マット運動はどうせみんなで作るし。

3 仲間の体がどうなっているか見て教えたり、アドバイスをしたりすることについて聞きます。

(1) このようなことを小学校でしたことがありますか。

<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんした …… 1 ・わりとしたことがある …… 15 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりしたことがない …… 4 ・全然したことがない …… 0
<ul style="list-style-type: none"> ・50m走、跳び箱、マットなどで、フォームや手の位置を教えた。 ・バトンパスの方法を話し合った。 ・バスケットのパスの仕方をアドバイスされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が言える立場じゃない。その人より下手なので。

(2) このようなことを進んでしようと思いませんか。（小学校でしてきたかどうかは関係なく）

<ul style="list-style-type: none"> ・進んでしようと思う …… 7 ・しようとは思わない …… 12 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりしようとは思わない …… 1 ・全然しようとは思わない …… 0
<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスされると気をつけることがよくわかるから。 ・みんなに教えて、うまくなってほしいから。 ・できない子は、どこができてないかわからないと思うから。 ・自分もみんなも、教え合えばみんながうまくなるから。 ・マットは特に、危ないので。 ・やってみようとは思うけど、間違っていたらいやだから。 ・自分が教えてあげられるほど上手じゃないと思うから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手だから。

アンケート結果から、おおむね体育が好きな生徒が多いが、マット運動が苦手な生徒も多いとわかった。その理由としては、「技ができない」「こわい」という意見が多かった。また、「できる」方法がわからないという意見もあった。しかし反面、できるようになれば満足感をもつことができるし、どの生徒も「できるようにになりたい」という願いをもっているはずである。「できない」ことが苦手意識に結びついているので、「できる」喜びを味わわせていくことが大切である。また、恐怖感を取りのぞく場の設定や練習の仕方を工夫する必要がある。

うまくなるために相互援助活動が大切だとわかっているが、自分が正しいことを言えているか不安に思ったり、自分の技術が伴わないことで躊躇したりしてしまう生徒がいることがわかった。よって、生徒がマット運動のポイントを良く理解し、活発な相互援助活動ができるようにする手立てをうつ必要がある。

4 研究テーマとのかかわり

研究主題

部会テーマ 運動習熟のみちすじを理解し、仲間と共に高め合うことのできる体育学習

体育の授業において大切にしなければならないことは、生徒一人一人が運動の技能を高めること、上達のための思考力を身につけることである。また、技能を高めるための相互援助活動を効果的に仕組むことで、技能の習得に向けて仲間と共に高め合うことのできる体育学習につながると考える。

一方、保健体育科の大きな目標の1つが、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てることである。また、そのためには、運動を行う楽しさ、運動を見る楽しさ、運動を教える楽しさを感じさせることが必要である。ただ、器械運動では、「できる」楽しさを知らないまま単元を終えてしまう生徒もいる。生徒の実態からもわかるように、運動が嫌いな生徒にとっては、あまりやりたくない単元である。だからこそ、運動が苦手な生徒にも、できる喜びを感じさせ、仲間に教えてもらってできた喜び、自分が仲間の役に立てる喜びを感じさせたい。つまり、個々の「運動の技能」と「仲間とのかかわり」を伸ばしていくことで、共に高め合い、みんなが運動の楽しさを感じることを目指していきたい。

本単元では、その手立てとして、相互援助活動を効果的に仕組むことを中心に、研究主題に迫りたいと考えた。

(1) 上達のみちすじや目指す動きを生徒に理解させる手立て

技とつまずきの系統性を考え、場面に合った補助方法や練習方法を明確にすることによって、上達のみちすじや目指す姿を生徒が理解し、見通しをもって活動できると考えた。具体的には、段階表を用い、1つの技をいくつかの局面（要素）に分け、要素がいくつかできるかということ点数化することで、自分や仲間の状態を把握しやすくした。また、次のステップに進むためのポイント、補助の仕方や言葉がけなどの相互援助活動についても、要素別に示すことで、段階に合ったアドバイスができるようにした。

(2) 活動に応じた学習形態のあり方と、教師の指導・援助

前半練習と後半練習のねらいを明確にし、それぞれの活動に合わせた学習形態のあり方を実践する。まず、「技能」と「仲間とのかかわり」を尺度に、生徒をA・B・C・Dの4区分に分類する。練習時間のうち特に、前半練習でのペア学習の生徒の組み合わせを、教え合いが活発になるように仕組んだ。そうすることで、一人一人の技能と仲間とかわる力を伸ばすことにつなげたいと考えた。また、A・B・C・Dの各段階に必要な教師の指導・援助について検証する。

① 単位時間の学習過程表

内容	計画会 全体	G 計画会	前半練習	研究 中間 研究会	後半練習	試 技 会	G 反省会	反省会 全体
ねらい	本時目指す姿を知る。	グループで目指す姿を確認する。	・自分の動きや体の様子を知り、何が必要かわかる。 ・繰り返し練習し、技能を高める。 ・援助活動によりできる喜びを知る。	グループ内でメンバーの到達度を把握する。	・多くの目（いろいろな目）で動きを見て、よりの確な教え合いや補助をし、技能を高める。	本時できるようになったことを確かめる。	グループで、目指す姿になったか振り返る。	目指す姿に なれたか 振り返り、 自分や 仲間の 努力や 良さを 知る。
学習 形態	全体	グループ	異質ペア	グループ	異質小グループ	グループ	グループ	全体

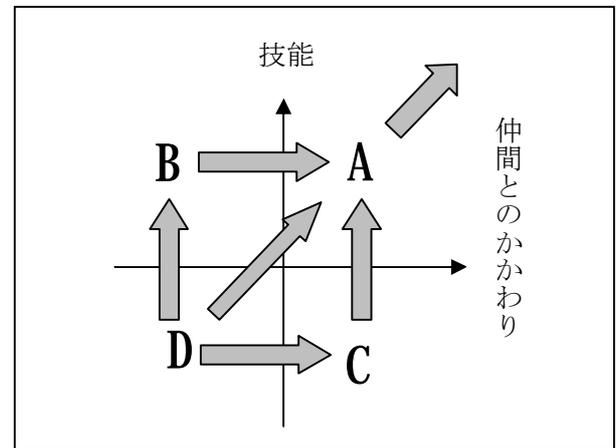
② 生徒A・B・C・Dの分類

「技能」と「仲間とのかかわり」の2つの軸で、それぞれの度合いによって、生徒を大まかに分類した。「仲間とのかかわり」は、大きく次の2つの側面としてとらえることにする。

(1) 教える力

- ・ 仲間の運動を見て、考え、判断する力
- ・ 相手に伝える力

(2) 教える意欲



この図においては、Aは技能も仲間とかかわる力もある程度身に付いている生徒、Bはかかわる力は弱いが高技能で、技ができる生徒、Cは教えようとする気持ちがあったりポイントを理解したりしているが、実際に体を動かしたときにうまく動きとして表せない生徒、Dはポイントを理解することや運動することに弱さがある生徒であるといえる。

単元を通して、図のようにしていくことが求められる。

- ・ Aには、Dの運動の様子を見て、アドバイスをたくさんさせ、仲間を上達させられる喜びを感じさせたい。仲間とかかわる姿をたくさん認め、さらにかかわり合いを強くしていく。また、自分の技をより美しくダイナミックに行うために、Dに運動の様子を見てもらい、繰り返し練習して技能を高めていく。
- ・ Bには、ポイントを明確にし、見て判断する力や仲間に伝える力をつけていくことで、仲間を上達させる喜びや自分の「わかってできる」喜びにつなげていきたい。
- ・ Cには、Bの動きを見て、ポイントをつかむと同時に、Bから自分の体がどうなっているか教えてもらったり補助してもらったりしながら、繰り返し練習して技能を向上させ、できるという事実をつくりたい。
- ・ Dの技能を高めていくには、仲間のアドバイスを聞いたり見たりする力をつけること、補助ができる力をつけることが必要である。ポイントが実際の動きとしてわかるよう補助してもらいながら運動をし、できるようになったという事実をつくりたい。また、補助者として、Aの運動の様子をポイントに沿って教えることで、仲間の役に立てるという事実を作る。これらの事実が、またやってみようとする気持ちにつながる。ペアとのかかわりを強くし、より良い連鎖をつくることを目指す。

「仲間とのかかわり」については、ただ技のポイントを教えるだけでなく、相手の状態を把握し、それに応じて柔軟に考え、教えることができる力をつけていきたい。「集団の高まり」としては、ペア（自分の相手）での教え合いを中心に仕組んでいくが、相手の状態を知り、教え、見守り、喜ぶことなどを通して、さらにつながりの深いペア、パートナー（同志）にしていきたい。

<前半練習>

そこで、前半練習では、ペアの組み合わせとして大きく **AとD**、**CとB** という2パターンを考えた。

Aには、技能も、仲間とかかわり教える力もある程度備わっているため、段階表をもとにDの姿を見てアドバイスさせたり、手本を示させたり、補助をさせたりする。また、Dに「足が伸びているか見ている」とポイントを絞って見てもらうことで、自分の動きについて知り、技能をさらに高める。

Dの技能を高めていくには、仲間の運動を見る力や、仲間のアドバイスを聞く力をつけることが必要である。「(〇〇さんの) 指を見て」など、ポイントを絞った指示をして、ポイントに注目して運動を見る力をつける。Aに教えてもらったコツで繰り返し練習することで、「1点上がった」「できた」という喜びを感じさせたい。

Bにはポイントを教え、Cの状態を見て段階を判断したり、どうしたら良いかを段階表をもとに仲間に

伝えていくよう促す。自分がアドバイスをしてペアが成功したときを認め、励まし、仲間を上達させる喜びを感じさせてAにしていきたい。

□Cには同じくポイントを教える。Bの示範の動きを見て、ポイントを視覚的に捉えさせる。Bから自分の体の状態を教えてもらったり補助してもらったりすることでコツをつかませ、できたという喜びを感じさせたい。

ADのペアには、どのような声掛けをしたら有効なのか、BCのペアにはどのような声掛けをしたら有効なのか、この単元を通して検証していく。本時では、前時に中間競技会を行い、各ペア内で相手がどの技をどの段階までできるか把握できるようにし、本時は明らかになった課題、段階について、教え合いながら、技の成功に近づけていく。

<後半練習>

後半練習では、複数のペアを合体させ、グループ内異質の小グループをつくる。3、4人で1グループになるため、前半練習よりもいろいろな目で1人の運動を見ることができ、また、どの小グループにもAが1人ずついることになる。ペアでは気づかなかった課題に気付いたり、違った見方で練習方法を提案したりすることで、効果的に技能を向上させたい。また、補助をし合ったり、アドバイスをし合ったりする中で、グループへの所属感を高め、仲間とかかわりながら学習する喜びをさらに味わわせたい。

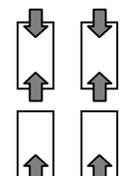
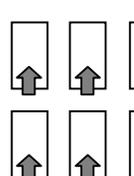
5. 単元のねらい 運動の側面 ○倒立前転～開脚前転～前転～伸膝後転～側方倒立回転の連続技が美しく流れるようにできる。

集団の側面 ●ペアの課題を成功させるために、姿をよく見て、積極的に体の状態を教え、アドバイスできる仲間になる。

6. 単元指導計画 (全12時間)

○運動の側面

●集団の側面

	学習内容		学習活動	教師の指導				
	運動の側面	集団の側面	運動の側面・集団の側面	運動の側面	集団の側面			
計画	計画会	1	○倒立前転～開脚前転～前転～伸膝後転～側方倒立回転の連続技が美しく流れるようにできるための意欲をもつ。	●仲間の姿をよく見て積極的にアドバイスし合い高め合える仲間になることについて意欲をもつ。	・めざす運動の姿、めざす仲間になるためのきまりを確認する。 ・グループ編成 (6～7人×3グループ) グループ間等質・グループ間異質、ペア間異質、小グループ間異質 ・役割 (L, PO, MO)	○示範により意欲を喚起する。 ○掲示等を使い、学習の仕方を具体的に示す。	●上達するためには、補助したり教え合ったり励まし合うなど支え合いのできるペアやグループが必要であることを教える。	
		練習	2	○倒立前転倒立姿勢を経過し、なめらかに回ることができる。	●自分の役割を果たし、指示に従って、てきぱき動ける仲間になる。 ●ペアの仲間を励ましたりどうなっているか状態を教えたりできる仲間になる。	○準備運動 <練習の場の設定> 前半  後半 	○自分の姿に応じた課題もてるように、はじめにペアが段階表と見比べて何点かを伝えるように助言する。 ○前半練習 (2～5時間目) では、技ができるようになるための練習を仕組む。技の発展性を考え、段階的に練習させる。 ○教師の示範や段階表をもとに、各得点の姿やポイントをどの生徒もわかるように説明する。 ○中間競技会では、自分とペアの現時点での出来具合を知るために、一連の流れで競技を行う。 ○後半練習 (7・8時間目) では、個々の技の完成度を高める練習を行う。前半練習をもとに、それぞれの段階に合わせてペアで補助等を行う。	●マットの準備などを協力して行っているグループを価値づける。 ●仲間に状態を教えたりアドバイスをしたりしている姿をできるだけ多く認め、価値づける。 ●前半練習 (2～5時間目) では、段階に応じた補助の仕方を説明し、ペア同士行えるようにする。 ●段階に合ったアドバイスができるように、段階表の見方を教え、活用するように促す。 ●援助活動が不十分なペアやグループには、教師が積極的に声をかけて雰囲気づくりをする。 ●あきらめずに粘り強く練習している姿や、仲間に精一杯かかわる姿を価値づける。 ●後半練習 (7・8時間目) では、ペアが互いの状態を見極め、完成に向けて微調整ができるよう、運動をしっかりと見させる。 ●中間競技会・発表会では、仲間の精一杯の姿に温かい拍手をおくるよう指導する。
			3	○開脚前転なめらかに回り、ひざを伸ばして立つことができる。				
		練習	4	○伸膝後転ひざを伸ばして立つことができる。	●ペアがどの技をどの段階までできるのかを把握し、伝えられる。	<1時間の流れ> セフティ  セフティ 	○後半練習 (7・8時間目) では、個々の技の完成度を高める練習を行う。前半練習をもとに、それぞれの段階に合わせてペアで補助等を行う。	
			5	○倒立前転から伸膝後転までの技を一通りやり、自分の課題を知ることができる。				
		中間競技会	6	○倒立前転から伸膝後転までの技を一通りやり、自分の課題を知ることができる。	●ペアの課題を成功させるために、姿をよく見て、積極的に体の状態を教え、アドバイスできる仲間になる。	○全体計画会 ・本時の課題をもち、技術ポイントを話したり、考えたりする。 ○グループ計画会 ・本時の課題から、グループのきまりと個人課題を確認する。 ○前半練習 ・ペアで相互援助活動を行い、ポイントを意識して繰り返し練習する。 ○中間研究会 ・前半でのメンバーそれぞれの状況を把握し、後半練習につなげる。 ○後半練習 ・異質小グループで、援助活動を行いながらポイントを意識した練習をする。 ○試技会 ・1つの技を1人2回発表。グループで得点をつける。 ○グループ反省会 ・本時の振り返りをし、技能の高まりや仲間の良さを認め合う。 ○全体反省会 ・仲間の技能の伸びや集団の高まりを知る。	○後半練習 (7・8時間目) では、個々の技の完成度を高める練習を行う。前半練習をもとに、それぞれの段階に合わせてペアで補助等を行う。	
			7	○倒立前転倒立姿勢で2秒静止し、なめらかに回ることができる。 ○開脚前転膝を伸ばしたまま回り、マットの直前で足を開いて立つことができる。				
		練習	8	○伸膝後転最初からひざを伸ばして回り、ひざを伸ばして立つことができる。	●互いの努力や成果を認め、成功を喜び合える仲間になる。	○グループごとに技能の学習の成果を振り返る。 ・個人技能の得点、グループでの得点の整理をする。 ●グループごとにきまりの学習の成果を振り返る。 ・MO中心に、個人やグループでの成果を発表する。	○技を成功させるために精一杯取り組んだ姿や、伸びがあった姿を具体的に紹介して、全体の場で価値づける。	
			9	○側方倒立回転ひざと腰が伸びて大きく回り、手手足と、一直線上でつくことができる。				
		練習	10	○側方倒立回転ひざと腰が伸びて大きく回り、手手足と、一直線上でつくことができる。	●めざす仲間の姿になれたかどうか、事実やきまりの達成度をもとに振り返ることができる。	○グループごとに技能の学習の成果を振り返る。 ・個人技能の得点、グループでの得点の整理をする。 ●グループごとにきまりの学習の成果を振り返る。 ・MO中心に、個人やグループでの成果を発表する。	○技を成功させるために精一杯取り組んだ姿や、伸びがあった姿を具体的に紹介して、全体の場で価値づける。	
			11	○倒立前転～開脚前転～前転～伸膝後転～側方倒立回転の連続技が美しく流れるようにできる。				
		最終競技会	12	○発表会の結果や学習の足跡をもとに、ねらいの達成度を振り返ることができる。	●めざす仲間の姿になれたかどうか、事実やきまりの達成度をもとに振り返ることができる。	○グループごとに技能の学習の成果を振り返る。 ・個人技能の得点、グループでの得点の整理をする。 ●グループごとにきまりの学習の成果を振り返る。 ・MO中心に、個人やグループでの成果を発表する。	○技を成功させるために精一杯取り組んだ姿や、伸びがあった姿を具体的に紹介して、全体の場で価値づける。	
12	○発表会の結果や学習の足跡をもとに、ねらいの達成度を振り返ることができる。							
評価	反省会	12	○発表会の結果や学習の足跡をもとに、ねらいの達成度を振り返ることができる。	●めざす仲間の姿になれたかどうか、事実やきまりの達成度をもとに振り返ることができる。	○グループごとに技能の学習の成果を振り返る。 ・個人技能の得点、グループでの得点の整理をする。 ●グループごとにきまりの学習の成果を振り返る。 ・MO中心に、個人やグループでの成果を発表する。	○技を成功させるために精一杯取り組んだ姿や、伸びがあった姿を具体的に紹介して、全体の場で価値づける。	●仲間のために精一杯教えた姿、声をかけた姿、そのことによって伸びた技能を具体的な事実や姿で示し、価値づける。	
		12	○発表会の結果や学習の足跡をもとに、ねらいの達成度を振り返ることができる。					

7. 観点別評価規準

		学習内容		観点別評価規準および方法								
		運動の側面	集団の側面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考判断	運動の技能	運動についての知識理解					
計画	1	○倒立前転～開脚前転～前転～伸膝後転～側方倒立回転の連続技が美しく流れるようにできるための意欲をもつ。	●仲間の姿をよく見て積極的にアドバイスし合い高め合える仲間になることについて意欲をもつ。	・運動の特性について興味もち、進んで取り組もうとしている。(観察)			・マット運動で目指す姿がわかり、それを達成するための学習の進め方を理解する。(観察)					
展開	2	○倒立前転倒立姿勢を経過し、なめらかに回ることができる。 開脚前転なめらかに回り、ひざを伸ばして立つことができる。	●自分の役割を果たし、指示に従って、てきぱき動ける仲間になる。 ●ペアの仲間を励ましたりどうなっているか状態を教えたりできる仲間になる。	・自分の役割を理解し、進んで役割を果たそうとしている。 ・課題を意識して、できるようになるように何度も練習している。(観察)	・段階表を見ながら、相手の段階がわかり、相手の運動の様子を教えることができる。(観察・学習カード)	・倒立姿勢を経過し、なめらかに回転する倒立前転ができる。(観察) ・ひざを伸ばして立つ開脚前転ができる。(観察)	・安全な補助の仕方がわかる。					
	4							○伸膝後転ひざを伸ばして立つことができる。	●ペアがどの技をどの段階までできるのかを把握し、伝えられる仲間になる。	・中間競技会から、自分の課題を明確にし、その課題解決に向けて練習に精一杯取り組もうとしている。(観察)	・ひざを伸ばして立ち上がる伸膝後転ができる。(観察)	・技の段階の確かめ方を理解している。(観察・学習カード)
	5							○倒立前転倒立姿勢で2秒静止し、なめらかに回ることができる。開脚前転膝を伸ばしたまま回り、マットの直前で足を開いて立つことができる。				
	6	○伸膝後転最初からひざを伸ばして回り、ひざを伸ばして立つことができる。	・課題解決に向けて何度も練習したり教え合ったりして、仲間と協力して取り組んでいる。(観察)	・段階表や仲間のアドバイスをもとに、段階を判断し、技のポイントを考えながら、練習方法を工夫している。(観察)	・マットの直前で足を開きひざを伸ばして立つ開脚前転ができる。(観察)	・ひざを伸ばして立ち上がる伸膝後転ができる。(観察)						
	7	○側方倒立回転ひざと腰が伸びて大きく回り、手手足と、一直線上でつくことができる。					●互いの努力や成果を認め、成功を喜び合える仲間になる。		・腰やひざが伸び、手手足と一直線上でつく側方倒立回転ができる。(観察)	・技の段階の確かめ方を理解している。(観察・学習カード)		
	8	○最終競技会倒立前転～開脚前転～前転～伸膝後転～側方倒立回転の連続技が美しく流れるようにできる。	●めざす仲間の姿になれたかどうか、事実やきまりの達成度をもとに振り返ることができる。	・めあてが達成できたか、努力した姿や伸び、仲間の良さを具体的な姿で振り返っている。(学習カード)								
	9	○発表会の結果や学習の足跡をもとに、ねらいの達成度を振り返ることができる。						・自分や仲間の、課題に向かって努力する姿や伸びを具体的に振り返り、反省することができる。(学習カード)				
10												
11												
12												

8. 本時のねらい **運動の側面** ○倒立姿勢で2秒静止し、なめらかに回転する倒立前転ができる。ひざを伸ばしたまま回転し、マットの直前で足を開いてひざを伸ばしたまま立ち上がれる開脚前転ができる。

集団の側面 ●ペアの課題を成功させるために、姿をよく見て、積極的に体の状態を教え、アドバイスできる仲間になる。

9. 本時の展開 (7 / 12) ○運動の側面 ●集団の側面

		学習内容		学習活動	教師の指導	
		運動の側面	集団の側面	運動の側面・集団の側面	運動の側面	集団の側面
展開	計画会	○倒立姿勢で2秒静止してなめらかに回る倒立前転・膝を伸ばしたまま回りマットの直前で足が開く開脚前転ができるようになる。	●ペアの課題を成功させるために、姿をよく見て、積極的に体の状態を教えることで、ともに上達できる仲間になることについて意欲をもつ。	[準備、準備運動] ○●グループごとに器具の準備、ランニング、準備体操を行う。 [全体計画会・グループ計画会] ○本時の課題と、そのためのポイントを提示する。前時の中間競技会の結果とそれぞれのペアの分析から、本時の個人課題を明らかにする。 ●本時の学習のきまりやめあてを確認する。	○中間競技会で明らかになった各自の課題を部分的に練習し、本時では倒立前転と開脚前転を練習することを伝える。 ○本時のめざす姿とポイントについて絵図を使って示す。	●今までの相互援助活動の価値付けから、本時でも意識することを促す。 ●係の役割や本時のきまりについてMOから発表させる。
	前半練習	○本時の課題を解決するために練習することができ、仲間の課題の解決のために補助ができる。 ○倒立姿勢を保つために、手や腕、お尻に力を入れて練習できる。 ○開脚前転では、勢いをつけて回転することを意識して練習ができる。 ○研究会で自分の課題を確認し、繰り返し練習できる。 ○自分の練習の成果を出すことができる。	●ペアの仲間の技を技術ポイントに沿って見て、体がどうなっているか教えることができる。 ●仲間の段階に合わせた練習方法を考えたり、アドバイスしたりすることができる。 ●段階表に従って得点をつけることができる。 ●仲間に励まし声やアドバイスの声をかけ、互いの成果を認め合うことができる。	[前半練習] ○各グループの場所に分かれて、ペアごとに練習をする。 ○技術ポイントを明確にもって練習する。(段階表を活用する) ●段階表を見ながら、相手の段階を把握し、体の状態や必要な練習を教え合う。 ●できない生徒、できそうな生徒の補助を行う。 [中間研究会] ●グループ内のそれぞれの状況を、段階表をもとに確認し合う。 [後半練習] ○●異質小グループで、相互援助活動を行いながら、繰り返し練習する。 [試技会] ○グループごとに倒立前転・開脚前転を1回ずつ発表して、評価し合う。 ●ペアの子の課題を意識し、発表時も、瞬時の声などアドバイスや応援を行う。	○前半練習では、5回ずつ交代で練習させ、ペアでの援助活動を徹底させる。 ○中間研究会では、グループ内でメンバーそれぞれの段階を把握する。 ○後半練習では、異質小グループで、段階表をもとに援助活動を活発に行わせ、それぞれの技能を高められるようにする。	●はじめにペアが段階表と見比べて何点かを伝えるように助言する。 ●段階表をもとに、技の段階に応じた具体的なアドバイスを促す。 ●A B C Dそれぞれのタイプに合わせて、指導・援助をする。 ●援助活動が不十分なペアやグループには、教師が積極的に声をかけて雰囲気づくりをする。
	中間研究会 後半練習 試技会	○練習の成果やねらいがどれだけ達成できたか振り返り、次時の課題を確認することができる。	●めざす仲間の姿になれたかどうか事実やきまりの達成度をもとに振り返ることができる。	[グループ反省会] ・本時の反省をし、できばえについて振り返り、自己評価、仲間の頑張りを交流し、次時への課題を交流する。 [全体反省会] ・個人の伸び、ペアやグループの高まりを交流し、認め合う。 ・次時の課題を知り、意欲をもつ。	○ねらいに向けて一生懸命努力したり、少しずつでも伸びたりした生徒を具体的に紹介して価値づける。	●段階に合った教え合いや補助を一生懸命しているペアやグループの姿を価値づける。

【課題】○倒立姿勢で2秒静止してなめらかに回る倒立前転・膝を伸ばしたまま回りマットの直前で足が開く開脚前転ができるようになる。
●お互いの段階に合ったアドバイスや補助ができ、ともに上達できる仲間になる。